



☺三河のつぶやき☺

だんだん秋めいてまいりました。毎年冬になるとベッドが満床になり、救急が受けられなくなり申し訳なく思っております。今年は春、夏にもかかわらずベッドが満床であることもありました。冬はより一層厳しいベッド状況が予想されます。これまで院内外のみなさまと相談を続け、何とか救急をストップさせないよう準備をまいりました。しかし当院内改善のみでは十分な対応ができません。皆様のお力をお貸しください。当院は当院の果たすべき役割をできる限り果たすために努力いたします。どのようにしたら根本的な解決が望めるのか…皆様のご意見お聞かせ願えればと存じます。



地域医療連携室 室長 三河 貴裕

地域医療連携の覚書・WEB開示項目調査票に関しまして

地域医療連携の覚書の締結についての文書を送らせて頂きました。9月末までに覚書をご返送頂いた皆様は連携医療機関として当院で作成したパンフレットへ掲示させていただきます。併せて当院HPでの連携医療機関掲載を予定しております。9月以降も受付けておりますので引き続き覚書、またWEB開示項目調査表及び画像データのご送付についてご協力をお願い致します。

TOPICS

開催予定講演会のご案内

TOPICS

前号でご案内しました、【放射線治療講演会】の終了時間に変更がございますのでご案内いたします。引き続き皆様のご参加をお待ちしております。

【放射線治療講演会】

日時:平成24年11月16日(金) 18:00~19:15

講師:君津中央病院 放射線治療科部長 清水わか子先生

【がんの早期診断講演会】

日時:平成24年12月13日(木)19:00~20:30

講師:栃木県保健衛生事業団 理事 森久保寛先生
同 乳がん検診部長 阿部聡子先生

【緩和ケア基礎研修会】

日時:平成25年1月19日・20日(土・日)

*こちらの研修会のお申込等は別途ご案内いたします

会場は全て亀田総合病院Kタワー13階ホライゾンホールです。

【がんの栄養管理講演会】

日時:平成24年11月21日(水) 18:00~19:00

講師:近森病院 臨床栄養部部長 栄養サポートセンター長 宮沢靖先生

【がんのリハビリテーション講演会】

日時:平成24年12月14日(金) 18:00~19:00

講師:岡山大学教授 尾崎敏文先生

【がん看護講演会】

日時:平成25年2月22日(金) 18:00~19:30

講師:癌研有明病院 がん専門看護師 花出正美先生

マイブーム マッサージチェア

マイブームは、遂にマッサージチェアを購入したことだ。購入を後押ししたのは、最近、マッサージソファなるものが販売され、そのシックなデザイン、そして何よりも小振りな作りが決め手となった。実際使ってみると、施術のために生まれた二つの揉み玉が叩き、揉み、ほぐし、好みの部位に好みの強さで施してくれる。普段手の届かない背中や腰周りの筋肉をリズム良くほぐしてくれる。私にとっての頼もしい相棒である。

最近の健康雑誌やテレビ番組で、ロコモティブシンドロームという足腰の弱りということ、よく耳にする。これは、足腰の筋肉の衰えや痛み、バランスの悪化によって歩行が困難になることらしい。今のうちから足腰の筋肉を労(いたわ)っていきたいと考えている。なんせ、足腰が弱ってしまうと「頼もしい相棒」を掃除の時に移動できなくなってしまうのだから。

Ryuichi

安心・安全な薬物治療には不可欠な薬薬連携

薬剤管理部 部長 佐々木忠徳

薬薬連携というフレーズを聴かれたことがあるでしょうか？これは病院と保険薬局を通して連携を図るといった意味から生まれた言葉です。医薬分業が進められてきた今日、地域に密着した医療体系構築には薬薬連携は重要不可欠になっています。理由として医薬分業(かかりつけ薬局)とは個々の患者さまは、さまざまな医療施設を受診していることが多く、薬物療法を遂行する上で薬の相互作用、重複処方など多くの薬に関連した情報を一元的に管理する必要から期待されるようになったからです。また、これは単に医療用医薬品(病院、診療所で処方される医薬品)に止まらず、テレビコマーシャルなどで宣伝されているOTC(over the counter drug; 薬店で買える薬)も多用されるために、注意を要する場合も出てきます。多くの薬が開発され、それに関連した問題点も明らかになってきた今日では、医療施設と保険薬局を結ぶためには施設内の薬剤部門と連携が非常に重要であることが明かです。さらに、薬剤師育成は6年制に変更され、平成24年に新しい教育を受けた薬剤師を輩出しました。これは高度化する医療に適応するために適正な薬物治療を支援、遂行する使命があります。これを実施するに当たっては薬剤師の職能拡大やスキルアップが必要です。そのために薬剤師どうしが連携を図りながら薬薬連携を実践していくための取り組みとして鴨川臨床薬学セミナーを開催しています。薬の専門家として地域医療を担っていくと考えていますので期待してください。

地域医療の実践のなかで亀田メディカルセンターとの関わり

いつも亀田メディカルセンターの皆様にはひとかたならぬお世話をおかけしております。この場をおかりして御礼申し上げます。

「いすみ医療センター」は平成20年国保国吉病院が新築移転した際に改名したもので一般病床92床、2類感染病床4床、療養病床48床の病院で、老健100床を併設し訪問看護・診療等の包括医療を実践に努力しております。国保国吉病院時代より亀田メディカルセンターにはいろいろな意味でお世話になっておりました。亀田メディカルセンターは、急性期医療では2次救急輪番制のバックアップ病院として、そして一般診療においては、当院で治療不能な疾患を引き受けていただいたり当センターにとっては、なくてはならない存在です。最近では、癌連携パスや感染対策カンファレンスの仲間に入れていただいたりしております。

当センターに力の及ばないところが多いだけに、亀田メディカルセンターに当地区より相当多くのかたが治療されて迷惑をおかけして病室も恒常的に満床状態と聞きおよびます。寛解期をむかえられた方や慢性期の方は出来るだけ連携をとって引き受けたいと考えております。特に救急では葛西先生にお世話になっております。

また三河先生は遠方にもかかわらず、連携室の方々とともに直接当院に向かいいただいたり大変恐縮しております。いままで医療連携はありましたが、近年顔の見える関係になり、スムーズになったと考えております。今後は情報提供書みの関係でなく顔の見える関係を保てれば結局は地域のため患者さんのためなりスムーズな連携がとれると考えています。今後とも多方面で親交を深め御指導いただきたいと考えております。宜しくお願いいたします。



いすみ医療センター 院長 姫野雄司先生